

平成31年3月

臨時教育委員会会議録

十日町市教育委員会

## 平成31年3月臨時教育委員会会議録

### 1 開催日時、会場

平成31年3月15日（金） 9時30分～10時20分  
川西庁舎 4階 第1研修室

### 2 出席

蔵品泰治教育長、吉楽隆一委員、庭野三省委員、佐藤美佐子委員、浅田公子委員

### 3 説明のため出席した者

子育て教育部長（樋口幸宏）、文化スポーツ部長（富井敏）、教育総務課長（長谷川芳子）、学校教育課長（山岸一朗）、指導管理主事（山本平生）、生涯学習課長（鈴木規宰）、文化財課長（佐野誠市）、スポーツ振興課長（井川純宏）

### 4 会議の内容

#### （1）会議録の承認

2月定例会 署名委員：庭野委員、吉楽委員

#### （2）会議録署名委員の指名

署名委員：吉楽委員、佐藤委員

#### （3）報告・協議事項

##### ① 報告第1号 十日町市立小・中学校の望ましい学区について（答申）

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

長谷川教育総務課長

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・中学校の再編については、疑問が多く納得できない。地域の人とも話をしたが、初めに数字ありきということに疑問を持っている。少子高齢化の時代に中学校を1学年2学級と定めるのは、上手くいかないと思うが、本当にこれを進めるのか。

蔵品教育長

- ・中学校については、1学年2学級は最低でも必要であるということを地域代表の方やPTA代表の方などからなる検討委員会での意見を集約した中で決まったものである。尊重しなくてはならないと思う。

庭野委員

- ・基本的な原案は事務局が作り、委員から意見を求めたのではないか。

長谷川課長

- ・検討委員会でワークショップや学校視察などを行い、挙がってきた意見をまとめて積み上げていったものである。

庭野委員

- ・小学校は複式学級が問題で、中学校は2学級以下が問題であるという前提で議論すれば自然とこうなるのではないか。あとは組み合わせで、校舎等の施設を考慮するなどだが、数字合わせでは絶対に市民は納得しない。

#### 蔵品教育長

- ・これから教育委員会の方針を決めて、市民の皆さんに説明したいと思うが、検討委員会の皆さんがこのような結論を出したということである。

#### 吉楽委員

- ・庭野委員が言われたことは、全体として理解できる。もう1点は、現実を直視しなくてはならない。根本的には人口が減っていくことと、子どもの数が減っていくことは、国が抱えている問題でもあり、まず子どもが生まれていく基本的な政策が必要である。それと、学校で教える教員の確保が難しいということが、現場で何が起こっていくのかを想像すると、保護者や地域からの期待を受ける教員側では、マンパワー的に相当きついということが全国で起こっており、ひとりの子どもに関わる教員の時間や余裕が厳しいという自分の認識である。具体的にどうするのかというと、相当の議論と反対意見があると思う。特色のある学校と記載されているが、特色を持たせることは非常に大変な作業だと思う。最終的にどのように学校に特色を持たせて、そこで育っていく子どもたちがどういう子どもに育っていくのかという提案が出てきてほしい。後退する議論より、再編してこの事を頑張っていくという、前向きな議論であってほしい。地域の皆さんにとっての学校が、伝統文化や地域の核ということは十分に理解できるが、それを地域が背負って、いかに子どもたちと繋いでいくかということではないか。統合した学校の人数が増えましたということが解決ではなく、そこに十日町らしい特色をどうやって作るかということを前向きな議論を行い、より良いものになっていくのではないか。

#### 庭野委員

- ・具体的に吉田小学校と鑑島小学校は、統合してもすぐにどこかと統合しなければならないと思う。同じように上野小学校と橘小学校があり、将来的には川西地域に小学校が1校となることが現実的に迫っている。中学校では、日本一の河岸段丘上に中学校をなぜ残さないのか。吉田クロスカントリー競技場で、先般の全国中学校スキー大会では、吉田中学校の生徒が素晴らしいおもてなしサービスをしていた。非常に良い教育の場であるのに、全部バッサリと切られてしまい、地域に根差したということに逆行していると思う。統合にはポリシーが必要であると思うので、数字合わせと予算だけで計画を作ることに問題があると思う。

#### 吉楽委員

- ・市町村合併時には6万5千人強の人口が、平成30年度で5万4千人前後なので、約1万1千人減少しており、地域が地域の形を保てなくなっていく現実があると思うので、小学校の統合とは問題が違ってもかもしれないが、数年間は頑張ってもその先に深刻な問題が起こってしまうことを想像してしまう。今は80人であっても、その先に活動できないくらいの小規模化が起こるのではないか。

#### 庭野委員

- ・私は教員として小さな学校に赴任してきたが、複式で27人だけれども立派な学校や山の中で3人の学校もあったが、何人であっても学校は価値あるもので、人数と敷地の広さだけで決めてしまうことには苛立ちを感じる。自分の出身地である飛渡地域は、希望の集落として頑張っており、子どもの人数も増えているが、複式学級が問題だとして

閉校してしまうのは如何なものか。勿論保護者の意見がそれで良ければ問題ないが、複式学級が問題であるという前提では納得できない。先般下条中学校の卒業式に出席したが、1学級であっても卒業生の答辞が素晴らしいものであった。検討委員は、児童・生徒数が多い方が良い学校だという発想のようである。

#### 蔵品教育長

- ・未就学児童の保護者から教育委員会へ、早く統合して欲しいという要望をいただいている。一番現実的に困っているのは、教員の確保の関係である。

#### 庭野委員

- ・教員の確保は、市ではなく県の仕事ではないか。以前は市の予算で教員を雇用していた時代もあったが、今は国と県の予算である。

#### 山岸学校教育課長

- ・教員を雇用すると3分の1が国、3分の2が県の予算で、人事権は県が持っている。けれども、現実には県に人事権があっても代替りの教員がないので、市でも探してほしいということで、実際に4月1日からの教員が決まらない。

#### 庭野委員

- ・それは臨時教員ではないのか。でなければ、県教委の怠慢ではないか。

#### 山岸学校教育課長

- ・県としては、無いものはないとしか言いようがない。

#### 庭野委員

- ・それは採用の計画が悪いのであって、それを県に申し入れるべきである。臨時の教員は別であることは理解している。市教育委員会が、正規の教員まで見つけなくてはならないことはない。県教委に強く言うべきである。

#### 山岸学校教育課長

- ・県には言っているが、現実に必要な配置が埋まらない。

#### 吉楽委員

- ・現実に入学者も終わり学校が始まったときに、教員が決まっていないという場合の対応はどうなるのか。教頭や臨時の方を考えているのか。

#### 山岸学校教育課長

- ・臨時教員で対応することになるが、その臨時がなかなか居ないので厳しい。

#### 庭野委員

- ・そういう問題を県会議員にも伝えなくてはいけない。県教委に働きかけてもらいたい。県教委は無責任すぎる。

#### 蔵品教育長

- ・県には問い合わせしてみるが、教員を目指す者が少なくなったこともあるのではないかと。小学校の教員採用の倍率が1.2倍ということで、ほとんどが採用される。今までは採用にならなかった人が講師として臨時教員になっていたが、そういう人がほとんど

居なくなっている。このような背景があり、検討委員会の皆さんにもご理解があった。答申の報告ということで今回はこれでよろしいか。

(以上の質疑のあと了承された)

(4) 議決事項

- ① 議案第1号 十日町市教育委員会組織規則の一部を改正する規則制定について  
蔵品教育長  
・議案第1号を上程し、事務局の説明を求めた。

長谷川教育総務課長  
・資料に基づき説明

(特に質疑はなく議決された)

- ② 議案第2号 十日町市教育委員会職員人事異動の内示について  
蔵品教育長  
・議案第2号を上程し、説明。

(特に質疑はなく議決された)

(5) その他

- ① 次回及び4月の教育委員会の開催予定日時  
3月定例教育委員会 3月26日(火) 14時から開催することに決定した。  
4月定例教育委員会 4月19日(金) 13時30分から開催することに決定した。

以上で、10時20分に蔵品教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記